

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500670		
法人名	社会福祉法人 熊本菊寿会		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	熊本市北区植木町木留336-2		
自己評価作成日	令和 2年11月 5日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigosaku.jp/43/index.php">http://www.kaigosaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム大和は、熊本市北区の北部に位置する植木町にあります。自然豊かな環境に包まれています。私達の事業所では、利用者様の一人ひとりが、やりたい事を見守り、支援しながら、共に笑顔のある暮らしが送れるように日々努めています。また地域の方々との関わりを大切に、ご利用者様が地域と共に暮らしやすい環境に努めています。今年は新型コロナウイルスの影響があり、地域の行事等も中止が多く事業所の行事にも交流することが出来ておりません。しかし、ソーシャルディスタンスを保ちながら地域の自治会長、民生委員さんはもちろんのこと、近隣の方々から声掛けをいつも頂いています。また、採れたての野菜やお花の物々交換を行ったりしています。新型コロナウイルスが流行りだした頃はマスク不足に悩んでいましたが、地域の方々からマスクの寄付等も頂いたりし、常に気にかけて頂いているのを実感しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の入れ替わりや、職員の異動という体制によりランチミーティングの充実や気づきあるケア等人を育てる環境に法人全体で取り組み、入居者の潜在能力を見出したケアはグループホーム本来の生活となり、共に生きる事を楽しんでいる。100歳を迎える入居者を最高齢として高齢化にある中で、園児との交流や、天気の良い日の散歩、歌って過ごしたり、手アイロンでの洗濯物たたみ等共に地域の中でとする思いが表れている。地域に根づく為地域へ出向きながらの啓発が功を奏し、地域との温かい関係(マスクや雑巾の寄贈等)へと繋げている。コロナ禍の中で、職員同士がお互い様の精神を持つとともに、得意分野を発揮していることが、防草シート張りへの取り組みや“一日一日を大切に、安心・安楽に暮らせるように…”とする理念等ベクトルを同じくしたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちで考えた介護の理念は、6項目ありケアの拠り所なっている。自分たちのケアがこれでいいのか不安になった時にいつでも振り返ることが出来るように2ヶ所に掲示している。	毎年掲げた理念の見直し時に一つ一つのケアを振り返り、マニュアルの手順を作成している。理念の6項目は掲示により意識付けとするとともにケアの迷い時の原点として捉えている。高齢化傾向に、“一日一日を大切に、安心・安楽に暮らせるよう支援する”ことに注視した日常等、職員はベクトルを同じくしてケアに努めている。また、法人として事業計画作成時にあらためて見直しを行う予定もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通年は地域等の行事などに参加していたが、今年は新型コロナウイルスの流行りに伴い交流ができていない。しかし、入室はできないが、様子伺いの訪問や電話を下さりお付き合いはできている。	地域サロンへの参加等コロナ禍により開催は出来ない状況であるが、ホームの畑を生かしながら保育園児との交流(さつまいも植や収穫等)、散歩時の園児との交流や畑を耕やして下さ地域住民や野菜などのおすそ分けなどもある。大和地区のボランティア活動の話し合いへの参加が住民からのマスクの寄付につながり、雑巾等も寄せられる等近隣住民との友好な関係を築いている。	地域に根づく為、公園での活動(掃除やグラウンドゴルフ等)をされる方々との歓談を行う等地域に足を運びながらホームの啓発に努力された結果が地域生活の拡充に繋げられている。コロナ収束にめどが立てば、地域の一員としての交流に大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同様に、今年は新型コロナウイルスの流行りに伴い直接交流はできていないが、オンラインにて認知症サポーター養成講座等を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルスの流行りに伴い、面会制限を行っているため運営推進会議は出来ていない。しかし、2ヶ月に1回の定期的な活動報告を書面にて送付し、ご意見等を頂いている。	運営推進会議中止により活動状況報告書を作成し、構成委員へ送付し、各委員から意見を収集する体制としている。自治会長や民生委員等直接足を運びアンケートを届けてくださっており、コロナ禍の中で職員への気遣いやできる事は手伝いたい等という好意的な意見が多く出されており、職員のモチベーションとして生かされている。また、これまでは外部評価結果も報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ささえりあ植木様、市北区福祉課及び保護課様とは定期的に連絡を取り、現況報告はできている。	ホームや入居者に関わる各関係機関との連絡により、相互情報の共有やホームの状況を発信している。毎月経済面で行政担当部署に出向き、オムツ申請等を行っている。また、認知症推進委員とともにサポーター養成講座を企画・参画したり、地域包括支援センター職員や民生委員、地域住民との山登りも体験している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を2ヶ月に1回程度開催し、禁止対象となる具体的な行為について振り返りを行い話し合いを行っている。	身体拘束廃止指針を掲示したホームは、不適切なケア等ランチミーティングや身体拘束防止委員会の中で話し合いを行っている。入居者の寄り添うとは…等検討し、入居者に合った声かけ等職員が気づきあるケアを向上する事を周知徹底する等話し合う時間を深めた1年であると振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルスの流行により、外部研修への参加は出来ていないが、上・下半期の内部研修を行いスタッフ間の周知徹底につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルスの流行により、外部研修への参加は出来ていないが、上半期の内部研修を行いスタッフ間の周知徹底につとめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解を得られている。いつでも気になる事があったら気兼ねなく声をかけて頂けるよう、日頃から利用者様の現況報告を通してコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防対策のため、今年度は面会制限をおこなっているもので、細目に利用者様の現況を連絡報告し、その都度ご意見がないか確認している。	面会制限をしたホームでは、窓越しの面会としている。その折に現状を報告したり、電話や運営推進会議のアンケートにより意見等を聞き取りしている。これまでは運営推進会議が家族の問題提起の場や家族同士の交流の機会として生かされていた。開催が出来る状態に戻れば、家族の意見等サービスに反映されるであろうと期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回以上個人面談を行い、普段からも何かあったら意見や提案が言いやすい環境づくりに努めている。	ランチミーティングを活用した話し合いとともに、個人面談により職員の意見等を収集している。法人からも来所され、入居者の状態や職員のケア等を確認される等、上席との話し合える関係性ができており、風通しと良い環境である。セルフストレスケアの研修なども行われている。また、職員同士のお互い様の関係や得意分野が随所に表れたホームである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々へ声掛けを行い各自の思いを理解できるよう努め、勤務環境の充実に繋がるよう図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受けて頂き、利用者様一人ひとりの支援について職員個々のケア状況を確認しながら適宜指導している。また中核職員については一緒にzoom研修に参加して頂きその事について指導できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所との交流を細目に行い情報収集を行ったり、サービスの質向上に繋がるようスタッフに伝達、内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションを細目に図り関係づくりに努め、困っている事・不安な事がないか定期的に傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の現況をご家族に連絡しケアプランをもとに支援内容について確認しながら検討を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を聞き、ケアプランに反映して支援している。また、インフォーマルサービスとしてパンの訪問販売を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの状況を把握し、一緒にできる食材の野菜の皮剥き・調理の味見、洗濯干し・茶碗拭き等他を一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は、コロナの影響で一緒に外出される機会はないが、面会や電話をとおして、利用者様が安心して暮らせるよう一緒に支援して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記と同様に今年度はコロナの影響で交流行事が出来ていないが、地域の方々からの声掛けや訪問は継続して出来ている。	密にならない場所・時間での買い物や、近くのカフェへ出かける等唯一の楽しみの継続や夕食時の晩酌(家族へ相談し、主治医の了解の下)等習慣を継続される等これまでの関係性を継続させている。また、週1回の移動パンを利用しお金を使用する支援等社会性を継続させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、コミュニケーションが取れやすい環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切に事業所行事への案内や運営推進会にも参加をして頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援を通して一人ひとりの思いや意向の確認を行い、困難な場合はご家族に確認しながら支援計画を検討している。	入居者の言葉一つ一つを大切に、認知症の進行に伴い、意思疎通の難しい場合もあるが、入居者への傾聴により思いに寄り添っている。好きなものへの反応、笑顔をバロメーターとして捉えたり、表情等により把握している。	現在ホームでは、傾聴に重きを持って研修されており、今後も入居者の希望等を引き出しながら支援いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の記録やご家族からの聞き取りにより情報共有が出来ている。さらに支援記録を日々ケアに活かし計画の見直しを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に経過記録を残し、しっかり現況把握を図っている。職員で共有し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及び必要に応じて課題とケアの在り方について関係者と話し合いを行い、介護計画を作成している。	家族の要望や入居者の言葉をもとに職員の気づきや観察結果をニーズとして、3ヶ月毎を基本にモニタリングを行う他、状況によっては随時話し合い、朱書きにより追加や変更を行う等具体的なサービス内容である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をとおして職員間で情報共有を図り、気づきを出来るだけ記録できるよう努め、検討見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族の関係構築に繋がるよう、新型コロナウイルス感染防止対応もあり、電話や窓越し面会にて現況報告をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナウイルスの流行により地域との直接的な関わりが余りできていないが、玄関先での訪問やこちらからも出向き近況報告を行い、関係性の継続を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望及び要望を確認して、かかりつけ医と事業所の関係性を築けている。	協力医療機関からの往診や週1回受診の日とする等本人及び家族の納得の上で支援している。受診対応は職員1名では不安もあるとして法人との連携により2名体制としている。日々の健康管理の徹底により、異常の早期発見に努め、主治医及び訪問看護ステーションの支援・連携により看取り期を支援している。次年度は、職員の健康診断も近くのクリニック及び協力医としたいとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働により、利用者個々の現状把握に努めた支援ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診時の相互の情報交換は適切に行えている。日頃から電話連絡とでの交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族等にそのことについての説明を行い、また重度化した際に終末期のケアの事前確認を書面にて行っている。看取り期には職員・かかりつけ医及びご家族と一緒に週末期の在り方について話し合いを行いながら支援している。	入居時に「看取りケア・終末期における指針」をもとに家族に説明し、事前指定書を取り交わしている。主治医や家族、職員との話し合いにより、訪問看護師の支援も受けながら、最近では5名の入居者をチームでターミナル期まで支援している。コロナ禍の中での看取りという状況に、家族の頻繁な電話連絡を受けお別れ会から葬儀までホームで行ったケースもあり、職員はもつとできることは無かったか等反省の弁を述べる等偲びのカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングにて応急手当を学び確認し合い、急変や事故発生時の迅速な報告・連絡を行えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難経路の確認及び環境整備に努めている。外部業者による消防機器点検も行っている。また、備品及び食材の備蓄整備も整えている	防災業者立会いのもと屋想定避難訓練及び水消火器を使用した火災訓練を行っている。水や食料として乾麺や缶詰、カセットコンロ等を用意し有事に備えている。ホーム回りの整理整頓や近隣の住民に声掛けし、避難場所に向き場所を確認したり、毎月チェック表により安全確認を行っている。	備蓄についてはリスト化されることを望みたい。昨今の自然災害は計り知れないものがあり、有事に際し職員が不安に感じない様に今後も継続した訓練に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待についての勉強会を行い不適切なケアについて職員全員が振り返りを行い支援を行っている。職員が互いに不適切なケアが言い合える環境づくりに努めている。	虐待やプライバシーの勉強会や接遇マナー等を研修し、個人情報保護や守秘義務についての徹底や毎年の労務契約時に同意書を書き、入職者ばかりでなく退職者への誓約書にて同意を得ている。職員は言葉遣いや入居者目線での会話につとめ、特に不適切なケアについてランチミーティングにより意識を強化し、日常の中でお互い注意喚起している。	トイレ使用時のドアについては、プライバシーの確保の観点や落ち着いて使用できる環境として改修も視野に皆さんで検討いただきたい。また、忙しさによりややもすると足音やノックなども忘れがちになるかもしれません。今一度振り返る機会を検討いただきたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つのケアを行う際は必ず言葉かけを行いご本人の意向を確認して支援できている。認知症状にて本人の確認が難しい方は、家族に支援の意向について相談し意思表示がない時は表情や体調を観てケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の気持ちや意向に合わせた支援ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服やヘアースタイル等、本人・家族に意向を聞きながら支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める時は入居者と相談しながら決めていく。個人のその日の体調に合わせて野菜の皮むきや味見、食器拭き等して頂いている。	季節の食材及び地域や家族等からの差し入れ等を利用しながら、入居者と相談しながら献立を立てている。彩にも配慮した食事は食思意欲として生かされ、日々のメニューは献立表として残すとともに、日誌の中に評価として残り今後の献立に生かしている。また、入居者もできる事、食器拭き等に取り組みされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取状況観察を行い、摂取状況に合わせた食事・飲み物及びご本人の好まれる物の提供ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状況に合わせて毎食後口腔ケア出来ている。また、希望される方は週に1回歯科往診があり、職員に口腔ケア助言も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを知りさりげなく声掛けを行い排泄支援ができています。オムツの方も座位が可能な方は、本人の気持ちを確認しトイレで排泄支援を行っている。	個々に応じた声掛けを行い、座位が可能であればトイレでの排泄を支援しており、オムツからリハビリパンツとパットに変更し立位訓練を行う等自立に向けた支援に努めている。排泄用品の組み合わせも一人ひとりに応じて支援し、我が家でポータブルトイレを使用されていた入居者は自分の物を持ち込まれ、夜間のみ使用されており、使用しない日中はカバーが掛けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を摂ってもらったり十分な水分補給を促している。排便困難な方は腹部マッサージを行い出来るだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に応じたタイミングに合わせてお一人ずつ入浴して頂いている。一人の職員が最後まで関わるので、ゆっくりと入浴を楽しむことが出来る。身体状況に合わせて二人介助支援している。	毎日入浴出来るよう準備し、毎日午後に入りたい等入居者の希望に即して支援している。湯船でゆっくり入る方や一方で夏場はシャワー浴の方もあり、菖蒲や冬至のゆず等により楽しみな入浴を支援している。また、身体状況によって2名体制で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情やしぐさ等で疲れが見える時は、部屋で休まれないか声掛けしながら安心して過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬の状況を把握し、薬剤師の方と情報交換を行い助言を頂き職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人それぞれの楽しみや意向に応じて、計算や塗り絵、読書など、また七夕セリ作りやおやつ作りなど嗜好品料理と一緒に楽しみ、洗濯干し・たたみ等日常生活の役割等感じて頂ける暮らしができるよう支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って散歩に行ったり、個別に季節ごとの花見やドライブ等への支援を行っている。	天気の良い日には日課として外気浴を行い、希望による散歩や保育園児とのサツマイモ植えや収穫、カフェへ出かけたり、花見やドライブ等に出かけている。最近では、コロナ禍により外出に代わる行事(母の日・父の日・七夕会等)を充実させている。	本部の応援により温泉を利用されたこともあり、現在は外出制限もあるが、密にならない場所等リサーチいただき、入居者の出かけたほしいを見出しながら支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望に応じて買い物支援を行えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の意向に応じて電話をかける支援を行えている。季節のハガキや手紙など出されないか声掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のくつろげる椅子やソファ、季節の花や飾り物等環境を整えて、心地よく過ごして頂けるよう努めている。	平成13年のオープンという経年等による老朽化も見られるが、玄関回りや共有空間、動線の良い廊下等充実した環境であり、壁面を利用した作品や飾りつけ等職員の持つ得意分野を発揮した空間である。畳のコーナーは時期的に炬燵を置き、皆で足を伸ばしたり、横になる方等居心地良く過ごされている。寒さ対策の徹底や、東西の廊下を開放した換気をコロナ対策の一環としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で会話がしやすいう、その場面に応じて座席の配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく入居時には使い慣れたものを持ってきていただくようお願いしている。居心地の良い生活空間になるよう工夫している。	入居者に馴染みの物の必要性を説明しており、ラジオや電気スタンドや、洗濯籠を持ち込み自分で服を整理される等自宅の沿線上として捉えた居室環境や家族の要望に応えた居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋の認識がしやすいように「表札」をつけたりトイレには暖簾をつけ過ごしやすいよう努めている。		